

第15回全日本ユース(U-15)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2022/12/27】

この試合のプレー集計

3位決定

群馬県選抜	14	<table style="border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <tr><td style="padding: 2px 5px;">7</td><td style="padding: 2px 5px;">－</td><td style="padding: 2px 5px;">1</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">3</td><td style="padding: 2px 5px;">－</td><td style="padding: 2px 5px;">2</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">2</td><td style="padding: 2px 5px;">－</td><td style="padding: 2px 5px;">2</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">2</td><td style="padding: 2px 5px;">－</td><td style="padding: 2px 5px;">4</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center; padding: 2px 5px;">PSO</td></tr> </table>	7	－	1	3	－	2	2	－	2	2	－	4	PSO			9	大阪選抜
7	－	1																	
3	－	2																	
2	－	2																	
2	－	4																	
PSO																			

審判： 宇田川 佑里子
 森林 和三

群馬県選抜	26	SH数	29	大阪選抜
	3	速攻数	7	
	8	ST・SB	11	
	8	SH・P誘発アシスト	10	
	50%	GK阻止率	18%	
	10	EX反則数	4	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

準決勝の石川戦では本来の群馬らしい水球が不完全燃焼。最後となる3位決定戦ではどこまで持ち味を出し切れるか。対する大阪は、ゆったりとした攻撃ペースにどこまで群馬を引き込めるか。3位決定戦は水球タイプが大きく異なるチームの対戦となった。

【1P】

ゆったりペースの大阪が守備からの②仁木の飛びだして退水を誘発して自身で決めて大阪が先制。すぐさま群馬もゴール前に迫って決めて同点に。さらに群馬⑥齋藤が左サイド、⑩深澤が右サイドをえぐって連続得点。さらに大阪のセンターDFの間を突いて、群馬⑩深澤が右45° からループシュートを決め、これで4連続得点。大阪ベンチはたまらずタイムアウト。群馬の展開水球はさらにギアをあげ、右サイドに回った⑥齋藤からワンタッチでセンターへ。そこを⑧前田が決めて5点目。大阪としては群馬にボールを散らさないような展開が欲しいところ。次はセンターに左サイドからワンタッチでパスが出て、再び⑧前田が決め、最後はブザービートを⑨深澤がGK頭上を抜くループシュートを決め、群馬7－1大阪。群馬らしい展開水球パターンで大阪を圧倒した第1ピリオド。

【2P】

大阪は②仁木のシュートも精度がなく、逆に群馬は人数を掛けずに⑧前田が6mSHで追加点。このあたりで群馬は小休止。目立った攻撃がないまま、逆に大阪が得意の②仁木のセンター攻撃で2点目をあげる。直後は⑥齋藤が取り返したが、次の攻めが単調。そこを大阪③高橋が右サイドを突いて大阪が3点目。群馬は退水を守ってから泳ぎ、左サイドから⑥齋藤が6mSHを決めて何とかピリオド優勢を保った。群馬10－4大阪で第2ピリオド終了。

【3P】

大阪のセンター攻撃で退水を誘発して2回目のタイムアウト。しかしシュートが決まらず、逆に群馬⑫星が左45° からゲット。大阪は中学2年生の②仁木の強烈なシュートで1点を返す。続いて大阪②仁木の退水誘発プレーで反撃体制に入ったが決まらず、逆に群馬が退水を誘発。中央トップ位置から⑥齋藤が決めて点差を広げた。大阪はセンターで④加納が退水を奪って自身がシュートを決め、点差を戻して第3ピリオド終了(群馬12－5大阪)。

【4P】

群馬のパスミスから数的有利な大阪③高橋が決めて、さらに全員速攻で右サイドからゴール前に入った②仁木が押し込んで連続得点。さらに群馬の中盤でボールを奪うと、トップ位置から⑨三矢が決めて3連続得点。その流れを押し戻したのは群馬ゲームリーダーの⑥齋藤。中央トップ位置で少し動いてパスをもらおうとGKの動きを見てループシュートを決めた。さらに群馬が退水を奪われた直後、大阪のGKへのバックパスを読んでインターセプト。それを難なく決めて流れを渡さない。大阪もエース②仁木が返して何とか大阪がピリオドを制したが、群馬14－9大阪で、群馬が第3位、大阪が第4位という結果となった。